

川柳二十五年九月 「さらさら」「柿」

ゴミや草 さらさらゆかぬ 小川かな 西沢秀子

さらさらと 流しそうめん 見てるだけ 西沢秀子

渋柿と 知らずに食べて 半泣きに 西沢秀子

さらさらは 春の小川か 血流か 山本昭子

柿工門 色鮮やかに 鉢の中 山本昭子

柿の実が 落ちて腐ってる 散歩道 山本昭子

柿の木に 登った頃が 懐かしい 伊藤直人

渋柿も 軒で干したら 甘柿に 伊藤直人

さらさらと 流れるようにと 飲む薬 伊藤直人

我が家より 飲み屋で食べる 柿うまい 掘輝規

すずなりの 柿の枝から 熊落ちる 掘輝規

玉ねぎを 食べて血液 さらさらと 掘輝規

渋柿を みんなさらった 猿の群れ 入江竜児

さらさらと 書いて遺した 祖父の軸 入江竜児

ゴミや草 奉仕で小川 さらさらと 入江竜児